



# 次の日になってこみあげた最高速達成の実感

— どうですか牧原さん、300km/h出たときの心境は。

牧原 うん、どうやったろうね。あの時は300キロ、300キロといわれてたから、それに刺激されたというところもある。それにやりやすかった部分もあるね、プレッシャーがかかってなかったから。

— みんなの目に触れていなかったという点ですか。

牧原 うん、だからすごく自由奔放にやれた。今だから言うけど、徹底して山本さんの車をマークしたね。同じエンジンやし、同じツインターボやし、それで予測つけた。

— 始めからL型と決めていたんですか。

牧原 チャレンジで最高速やってた頃が、ちょうどL型やったからね。僕自身チョップドZとかで谷田部を走らせていたし。だから自然にL型になったというか……。それに大阪はやつぱりL型というイメージがあるでしょう。

— そうですね、今でも強いですが、でも、ターボというものは少ない。

牧原 ターボはシルビアターボを作った初めてちょっと自信ついたという感じがな。タービンだけ買って、

じやない、富士で燃えたやつ。牧原 そうそう富士でね。あの頃ターボってあまりなかったでしょう。だから火がバースと噴いたとき「オツ、ターボって、直線で火噴くんやな」と思ったら、燃えてんやね、車がね笑。

— でもはつきりいって、あの車が目の前を走っていたとき、出たと思いましたが。

牧原 1周目はあまりスピードがあるように見えなかったけど、そのとき297km/hと聞いたからね。2周目はノーズの上げ方がちょっと違ったから、1周目より速いというのはすぐわかった。「ああ、300km/h超えてる」と。それであくる日かその次の日に詳しい話聞いて、その頃から実感として、嬉しさがこみ上げてきたね。当日も嬉しかったんだけど、どういふ顔したらいいんやろうというのがあったから、ぎこちなかったんやと思う。

— ちょっと離れたような感じがありましたね。

牧原 うん、やっぱりそういつところがあった。僕自身、300km/hというものに対して、待ちに待ったというの、あまりなかったわけ。ツインターボを始めて持って行くとき、

— 前宣伝していたわけでもないから、ある程度まではいかんとアカンというのが最初からあったから。

— 山本さんの車は、かなり参考にあったんですか。

牧原 それは当然、言えるね、同じL型だから。本に書いてあるのを見て予測つけられるし、大体わかってくる。やっぱりやりやすかったね。

— 山本さん、近しいって、ターボの場合、10km/h位の差はすぐ出ちゃうからね。

— 山本さんも最初はシングルターボでした。

— あれ、ツインじゃないですか。山本 一つはダメだから笑。ツイン遅かったもの、意外と。

— ツインターボでも300km/h出るね。大川 出ますね、いいタービンがかなり出てきたから。昔のタービンじゃ



同じフェアレディZに同じL型ツインターボをチューンUPする山本氏と牧原氏。先にデビューしていた山本氏のZが、大いに参考になったと牧原氏はいう。

— 山本、出るよ、シングルで。シングルのほうがラクでいいよ。

— 雨宮、でも、俺達はすつとやってるから、300km/hでなきゃおかし

いよね。はつきりいって、その点

— 牧原君はすごいよ、一発で出しちゃったんだもの。

— 山本、たいしたもんだよね。一発しや出ないと思っていたけど。

— 牧原、いやそれは、山本さんが走ってるからですよ、前に。

— 山本、90いくつか300位でとまると思っただけど、307km/hとは思わなかった。2周目が来たとき、ああこれは出ているとわかったから、「この野郎、気分悪いな」と思っ

— てさ、それで自分の車はこわすしかないなと思ったら、やっぱりこわれた。

— 雨宮、兄貴（井上晴男）がいったよ、パワーがあるって。出そうと思えば、もっと出るんじゃないの。

— 牧原、あの車は、まだ距離をあまり走ってないんですよ。ひよつとして、世間の状況どうなるかというのがあるから。あのときで、作ってから3000kmちよつとやね。やっぱりあ

— あいいうのって、チャンスやと思っわ。チャンス逃がしたら、出ないもんね。でもあれ以上の記録となると、やっぱり怖いやろうね。

— 雨宮、俺は一回、280km/hでタイヤがバーストしたことがあるからね、それが恐いんだよ。でも大川君は踏んじやうんじやないですか、クレージーだから。

— 大川、いや、一度それをやると恐いですよ、絶対に。

— 牧原、だから山本さんの車より、リフトの角度を押し込んだんです。みんなリフトつけてはしったでしょう。下側に1cmとか、こうポツと出して、あれを僕は、ほんの5mmだけ、かすかに出すようにしたわけ。あまり押えたら、タイヤの発熱もきついやろし。今までみんなの走っているのを写真で見ると、考えたんやけど。

— そうすると、空力もかなり気にしていたんですか。

— 牧原、気にしてたとはいえ、メチャクチャ気にしてたね。

— 山本、だけど雨さんの車も、はつき

りいって出ると思った。全然、音が違っていたし。故障がなければ、絶対に出たと思っ

— 12月のときですね。

— 山本、それはもういろいろところで、気合で作っている。という話を聞いていたからね。HKSの専務も「今度が出るよ」と言っていたし。普段はあまり言わない人が、絶対に出るっていうくらいだから、これは、と思っ

— 雨宮、うちが一番長くやってるんだから、出なきゃおかしいんだよね。山本、それであの日、裏でボーンという音がしたじゃない。ああこれで、ミツシヨンかなんかいつてるなと思っ

— てね。

— ああ、あの時は、くやしかったんじゃないですか。

— 雨宮、ただどういっちゃんだけ、どこでもうちくらい長くやっていけば、出るんじゃないかな、はつきり言っ

— てね。

— やはり最高速を出すには、かなりの苦労があると思いますが、その点、山本さんはいかがですか。

— 山本、お金の苦労だけです。

— 雨宮、女の苦労だけじゃないの（笑）。山本、いやいや、タービンが買えなくてね。ツインにしようと思っ

— て一命。前のタービンは、しっかりと溶けてしまったからね。

— 300km/hを出したときですか。

— 山本、違っよ。300km/h出した

